

毎日の暮らしにワクワクと感動をプラス！

カムナ通信

vol.81



発行日: 令和8年3月1日
(毎月1日発行)
発行人: 青木敬司
株式会社カムナ・プランニング / 東京都文京区目白
台2-9-7-503
電話: 03-3942-8633
info@kamuna-p.jp
<http://kamuna-p.jp/>

コピー、転載、引用、配布
はご自由どうぞ。

こんにちは。春らしい陽気を楽しめる日が増えてきました。5日は二十四節気の啓蟄で、冬ごもりしていた虫たちが活動を始めます。20日の立春は桜が咲き、雀たちは巣づくりに精を出します。様々な生き物たちが活発になる、生命力の旺盛な季節です。今年の干支は「丙午」で生命力にあふれる一年になるようから、この時期に心と体のギアを入れ替えて大自然の上昇気流に乗り、元気はつらつに参りましょう。

さて今回は、このような時期にこそおすすめしたい人助けアイテム「慈空」をご紹介します。「慈空」は、電磁波対策を主な目的に作られた携帯タイプの商品です。製造しているIC研究所の会長は、日本を代表する大手電機メーカーで、スーパーコンピュータの心臓部である集積回路の素材開発をされています。当時の主流だったゲルマニウム素材からシリコンへの転換に成功された方です。この素材の量産化によって私たちが使うPCにも応用され、世界標準となり、世界中の人がその恩恵を受けるに至りました。

会長は当時から電磁波の問題を危惧され、その対策を検討していました。その時に出会ったのが「不可能を可能にする技術」として注目されていた、「生体エネルギー技術」の開発者の佐藤政二さんです。今から25年ほど前に注目されたこの技術の検証試験で驚いたのは、めだかの致死量の化学薬品を入れた水をこの技術に通して循環させると、めだかが死ななくなるといったものでした。また、肝臓に異常値が見られるお酒好きの方が、この技術のマグカップでお酒を

飲んでいたら数値が改善したことから、「毒をクソリに変える技術」とも呼ばれました。

このお二人が意気投合され、スマホ専用の充電器「あまね」や、様々な電気機器の電磁波対策に使えるマルチタップ「命慧」、そして携帯タイプの「慈空」が誕生しました。商品開発の際に行った検証試験は、家が1〜2軒建つほどの費用が投入され、試験結果から博士号の取得者が現れるという本格的なものでした。その詳細は公表できませんが、その一部は「脳血液循環の増加」「大脳活性化の向上」「サーカディアンリズムの適正化」「エストロゲンの増加」「睡眠効率の向上」「体内炎症の低減」などです。すべての項目で担当された医学博士が驚くほどの結果が得られています。

私が特に注目したのは「シータ波出現率の増加」でした。医学的な脳波の検証はとても厳格で、この脳波が認められるのは200人に1人くらいなのですが、それが被験者全員に現れるというのです。この脳波は、一流の音楽家や高僧が意識を集中した際に現れ、卓越した能力を発揮するゾーンやフローと呼ばれる状態や、悟りの境地とも関係しています。ドジャースの大谷選手も冬季五輪で金メダルを獲得したりくりゅうペアも、このような脳波で天賦の才を発揮されているのです。

「慈空」は、電磁波対策以外にも、加齢に伴う不調や、ストレス過多で増える精神疾患の方に喜ばれています。パニック障害で遺書を書くほどだった女性は、今では社会復帰に向けて前向きに日々を送っています。天賦の才の発揮も健康の維持も、体に備わる能力が発揮できてこそです。生命力が旺盛になるこの時期こそ「慈空」をお役立っていたきましたら幸いです。いつもありがとうございます。

株式会社カムナ・プランニング 青木敬司

NEWS & TOPIC KAMUNA PRODUCTS

電磁波から身を守り 悟りの脳波「シータ波」へ導く夢のテクノロジー

生体エネルギー応用商品

「慈空」「あまね」「命慧」



「慈空(じくう)」「あまね」「命慧(いのちゑ)」は、生体エネルギー研究所の佐藤政二さんが提唱する「あらゆる存在の持つエネルギーを高め、本来の能力を引き出す情報(プログラム)」を取り入れた生体エネルギー応用商品です。これらの機器に通電すると、内蔵する合金に書き込まれたプログラムが電気に転写されて運ばれ、機器を使用する人に伝わります。この影響を受けた人は、大脳活性化値、脳血液循環、ホルモン量、サーカディアンリズム、CRP値(炎症マーカー)などに変化が現れることが、第三者機関での検証試験で明らかになりました。また、卓越した音楽家や高僧が意識を集中させた際に発する脳波「シータ波」も出現しやすくなり、健康面だけでなく、様々な能力の発揮や知的活動、精神性の向上にも貢献することが分かっています。

※ 第三者機関による検証試験実施済み商品

What's シータ波?

シータ波は、悟りの脳波とも呼ばれている、4~7Hz帯域の脳波で、長年修行を重ねた高僧が意識を集中した時や、超能力者が超常現象を引き起こす際に生じる脳波とも言われています。また、アスリートやアーティストが特別な集中状態で驚きの能力を発揮するゾーンやフローと呼ばれる状態にも共通しています。覚醒時の比較的粗い脳波は信号が多いゆえに情報のやりとり多くのロスが生じるのに対し、シータ波においては必要な情報が整理され、効率よく的確にやりとりされている状態とも考えられています。



磁場にプログラムを乗せて生体磁場と共鳴させる携帯タイプ

■慈空(じくう) ※まずはこれから!

「慈空」は、本体から発している磁場が約5mの範囲にプログラムの場をつくり、その範囲にいるすべての人の生体磁場と共鳴して作用します。生体エネルギー技術特有の「本来の能力を引き出す働き」に優れ、電磁波対策のみならず、体の不調や精神面の安定、集中力の向上、潜在能力の発揮など、様々なシーンで喜ばれています。

電源: DC1.2~1.5V(単4乾電池1本使用)、重量: 約27g(電池含まず)
サイズ: 30 x 94 x 18.6 (mm) 73,480円(税込)



おすすめ!!

電波にプログラムを乗せて相手にも与える新技術

■あまね ※ただ今リニューアル中です。

「あまね」は、携帯電話やスマートフォンに特化したプログラムを取り入れた、専用の充電器です。画面の光、音、電波を介してプログラムが伝わり、電磁波のネガティブな影響を和らげ、使用する人のエネルギーを高めます。電波を発信する側も、受信する側も、同じようにプログラムが働きます。通信相手が海外に居ても同様に効果が得られることを確認しています。

定格電圧: 125V、最大電流: 1.0A、コード長さ: 0.8m
サイズ: 97 x 47 x 25 (mm) 49,500円(税込)



電気にプログラムを転写して電磁波の影響を和らげるマルチタップ

■命慧(いのちゑ) ※生命を育む電気に!

「命慧」は電気に生体エネルギーのプログラムを転写するマルチタップです。電気機器の電源につなげると電気のエネルギーが高まり、電磁波によるマイナスな影響を和らげます。「命慧」に取り入れられているプログラムは、電気と一緒に電気機器に流れ、照明器具の光や、PCやテレビのディスプレイの光に乗って運ばれます。光以外にも暖房器やホットカーペット、電気毛布などは熱と共に、オーディオ機器は音波の振動に、冷蔵庫や電子レンジであれば冷気やマイクロ波によって運ばれますので、人も対象物もその影響を受けることができます。

定格電圧: 125V、最大電流: 15A(1500W)、コード長さ: 1.2m
サイズ: 200 x 45 x 45 (mm) 140,800円(税込)





■ICI研究所 代表取締役会長 工学博士
新田雄久さんインタビュー！



新田雄久さん

ICI研究所は情報を取り扱うことで技術革新を目指していますが、Information(情報)だけでは無理で、Intelligence(知恵)がないと成立しません。さらにはI(愛)が無ければいけないと考えていました。すべての存在は「いのち」を持っているからです。生体エネルギー研究所の佐藤政二先生の言われる情報は、その「いのち」から来ていることが分かったのです。そういう経緯でI(愛)を最大限尊重する意味でICI研究所という名前にしました。

I(愛)に基づく情報技術ですから、人の「いのち」につながり、励起する商品でなければいけません。当時は携帯電話が普及し始めた頃で、ヨーロッパではいち早く電磁波の人体への影響が指摘されていました。ところが日本は電磁波の影響については全く触れません。このままでは携帯電話の普及と共に、大きな問題になるのは間違いないという確信がありました。

そこで電磁波に情報を加えれば人体に悪影響を及ぼさないと考えました。もともと生体エネルギー研究所には電気に情報を転写させる装置がありましたので、そのパーソナルユース化を目指したのです。この考えを生体エネルギー研究所の佐藤政二先生にご理解いただき、技術協力を得られたことで、携帯電話専用の充電器を弊社の第一号商品「amane(天音)」としてリリースできました。その後、情報技術が進化してスマートフォンや5Gに対応できるようになり、現在の製品の開発に至りました。

この情報を作動させるには電気が必要になります。装置内の合金に通電するエネルギーを利用して電気自体に情報を転写します。合金に書き込まれた情報を電気が運び出して、私たちの元に届けるというイメージです。

情報(プログラム)の詳細についてよく聞かれますが、ひと言で言う「あらゆる存在の持つエネルギーを高め、本来の能力を引きだすための情報」です。これは宇宙法則のような、あらゆる存在を生々発展させ、生命を育む、とても高い次元の情報です。

現代社会は、電気を多用することで様々な環境の劣化が進み、多くの人知らぬ間にその影響を受けています。2021年に最も売れた本とも言われる「スマホ脳」(アンデシュ・ハンセン著、新潮新書)には、その具体的な例の一つとして、スマホが与える影響について記されています。そんな時代に電磁波のネガティブな影響を少しでも和らげられないかという思いで「命慧(いのちゑ)」「あまね」「慈空」をリリースしました。これらの商品に取り入れている情報を通して、心身の健康を目指していただき、人に本来備わる無限の可能性を引きだし、人生を進化・発展させるためにお役に立てただければと思います。その結果として、争いごとの無い、万物が調和する社会の実現に貢献できましたら製造元としてこの上ない喜びです。

■よろこびの声がいっぱい！ ※体感には個人差があります。

「慈空」 気圧の変化や加齢が原因と思われるめまいが無くなりました。・更年期で起き上がれない日がありましたが、今では全くありません。・心が穏やかでいられます。常に冷静な判断ができていくように思います。・集中力が増して余計なことを考えることが少なくなりました。・電磁波に過敏で退職を覚悟しましたが、続けられるようになりました。・仕事が以前より早く、正確になって褒められました。・お肌が明るくなってもちもちしてきました。

「あまね」 ・スマホの電源につないだ瞬間、画面の光がやわらかく、とても良い感じがします。・スマホを持つと違和感がありましたが、今は手に持っている方が調子が良いです。・あまねにつないでから、電磁波ストレスが軽減して助かっています。・長時間歩く時もあまねで充電したスマホを持っていると疲れにくいです。

「命慧(いのちゑ)」 ・PCの電源を命慧につないでいるせいか、長時間仕事をしても目が疲れなくなりました。・パソコン作業の効率が上がっています。忙しくても気持ちが安定しています。・冷蔵庫に使用したら食材の持ちがぜんぜん違うし美味しくなります。・壊れかけていたプリンターにつないだら買い替えなくて良くなりました。

感動のおすと分け

意識は宇宙と共鳴する営み

今月の一冊で取り上げた本に書かれていた、量子力学の発展によって明らかになりつつある、意識の本質に迫るくだりを一部抜粋にて紹介します。

量子力学は、私たちの直感をことごとく裏切る。量子は観測されるまで状態が定まらず、波と粒の両方の顔をもつ。遠く離れた粒子同士が一瞬で影響を及ぼす「量子もつれ」、時間の順序さえ曖昧になる「非時間性」—— 私たちが日常で感じる時間や空間の安定は、極微の世界では成り立たない。脳というマクロな器官は、こうした極微の振る舞いを直接感じることはできない。それでも、その揺らぎの波頭に、意識は触れているのかもしれない。

量子力学にはもうひとつ、観測問題という本質的な謎がある。「観測されるまでは、状態が定まらない」という原理は、観測という行為そのものが、物理現象に介入していることを意味するかもしれない。では、その「観測者」は誰なのか？

意識は世界と自己の関係を理解する機能であり、観測には意識が付きものだ。もし、観測がなければ現実とは定まらないのだとすれば—— 私たちの意識は、宇宙の成り立ちそのものと不可分なのかもしれない。私たちが脳という器官を使って、日々この世界を観測している。だがその観測こそが、現実を「存在させている」とするならば、意識とは単なる知覚ではなく、宇宙と共鳴する営みなのだ。あまりにも飛躍した考え方もかもしれない。しかし、量子力学が語る「観測されるまでは、状態が定まらない」という原理は、意識を必要とする観測という行為そのものが、物理現象に介入していることを意味している。それは、私たちの存在が、宇宙の成り立ちに関わる深い鍵であるという想像を掻き立ててくれる。

最先端科学は、この世の全ては「固定された実体がある」のではなく、可能性の海の中から観測を通じて一つの現実が立ち上がってくる「ことを明らかにしました。いま人類は、意識とは、心とは、生命自然・宇宙とは、といった根源的なテーマの本質をつかみ始めたようです。これを踏まえて一人ひとりが、「私という存在は何者なのか」「この瞬間をいかに生きるか」という問いに向き合われることでしょう。本質的な情報のアップデートと、心と体のギアシフトを常に心掛けていこうと再認識する今日この頃です。



今月の1冊 意識の正体 櫻井 武 著 幻冬舎新書

筑波大学教授で医師、医学博士の著者による、意識の本質に迫る著作。意識は、哲学者や神経科学者がその正体を探るも、“まるで霧の奥でかたちを変え続ける影を追いかけるよう”と記されるように、どこまでも得体のしれない存在。そこで著者はあえて“無意識”である、眠り、夢、仮死状態、冬眠、死、という意識が途切れる瞬間に目を向けて意識の輪郭を浮かび上がらようと試み、科学的な正確さだけに縛られない主観的な語りや物語を織り交ぜながら“思索の旅”に誘います。どうやら意識の本質は、私たちの脳内だけでは完結せず、宇宙そのものの在り方と関わっている可能性もあり、“私たちが宇宙の一部、私たちの存在そのものがこの宇宙の成り立ちと無関係ではありえない”と言われます。意識の世界をめぐる縦横無尽な旅を通して、多くの気づきと学びを与えてくれることでしょう。著者曰く“意識を考えるということは同時に「自己とは何か」を考えること”。人類の進化、成長に不可欠な根源的な問いに光を与えてくれる、何度も読み返したくなる素晴らしい一冊です。

かむな・ナウ 更年期と言われる年齢を迎えたあたりから、頭痛に悩まされることがありました。その頃慈空をよつように消えてしまいましたが、それ以来、財布やスマホを忘れても「慈空」だけは肌身離さず持ち歩いています。そんなある日、頭痛で動けなくなりました。「慈空を小さく手に取ったら、なんと電池が切れているではありませんか!! それには本当にびっくりしました。それ以来、必ずバッグに予備の電池を備えています笑 (ゆ)